

# Joe の豪ドル道場 (327)

(毎週月、水、金)

—豪州在住、侍ディーラーが豪ドルの真髄に迫る—

<モットー> “豪ドルを国際通貨の枠組みでとらえるとともに、豪ドルに

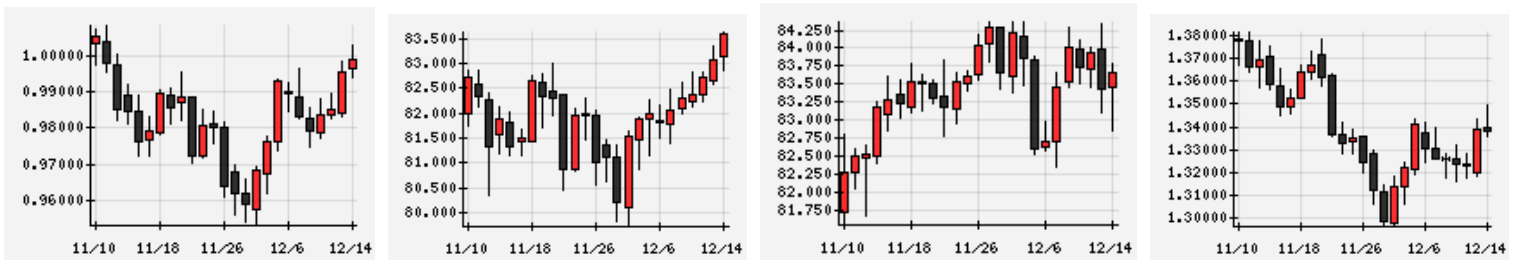
対する国内、対外要因を豪州市場から直接・徹底分析”

(豪ドル米ドル日足)

(豪ドル円日足)



(米ドル円日足)

(ユーロ米ドル日)



<長期予想ビジョン> 年末から来年にかけて米ドル底打ちの見方

通貨ペア	2010年12月末予想推移 (レート/変更日/実勢)
	0.8700 (予想レンジ 0.75-0.95) (31Mar 2010/0.9150) 0.9100 (予想レンジ 0.9000-0.9800) (24Sep 2010/0.9580) <b>0.9500 (予想レンジ 0.9300-1.0300) (18Oct 2010/0.9845)</b>
	87.00 (予想レンジ 73.00-93.00) (31Mar2010/85.5) 86.45 (予想レンジ 73.00-88.00) (31Mar2010/85.5) <b>85.50 (予想レンジ 75.00-88.00) (18Oct2010/80.10)</b>
	100.00 (予想レンジ 85.00-102.00) (31Mar2010/93.50) 100.00 (予想レンジ 82.00-102.00) (11Aug2010/85.35) 95.00 (予想レンジ 82.00-97.00) (27Sep2010/84.25)

	90.00 (予想レンジ 75.00-93.00) (18Oct2010/81.35)
 	1.3000 (予想レンジ 1.27-1.45) (31Mar2010/1.3400)

## 2009年12月末予想と実際のクロージング相場

通貨ペア	12月末予想値	実際のクロージング・レート
AUDUSD	0.9000	0.8980
AUDYEN	81.00	83.50
USDYEN	90.00	93.00
EURUSD	1.4500	1.4320

## 2010年6月末予想と実際のクロージング相場

通貨ペア	6月末予想値	実際のクロージング・レート
AUDUSD	0.8700	0.8404
AUDYEN	82.65	74.26
USDYEN	95.00	88.37
EURUSD	1.2500	1.2167

### <キーワード>

中国金融引き締め観測、北朝鮮問題、再び欧州財政不安、米追加緩和 (QE2) (11/3) 緩和への疑問?、RBA7回目の利上げ (11/2) -2009年10月、11月、12月、2010年3月、4月、5月、11月、25bp利上げ)、豪ドル米ドルパリティー達成 10/15、日銀実質ゼロ金利政策 (10/5)、ドル円 15年ぶりの安値更新 82.88 で日銀介入 (9/15) 安値 80.24 (11/1)、前回 85円割れ 84.82 (2009/11/27)、米国景気減速、中国景気減速、中国貿易黒字拡大、人民元弾力化政策、米国出口戦略後退、新鉱物資源利用税 (MRRT)、中国不動産投資規制、中国の銀行融資規制、金価格史上高値更新 1431.30 (12/06)、米商業不動産問題、ドルキャリートレード、中国の豪州資源投資、日米ゼロ金利はいつまで続く? ドル円 100円超えから反落し 100円に戻らず (2009年4月以降)、RBA 豪ドル買い介入 (10月、11月 2008年)、RBA78セント台で利食いの売りの噂 (2009年5月)、RBAの市場でのネット豪ドル売りは 2010年9月 526mio、8月 397mio、7月 570mio、6月 1229mio、5月 445mio、4月 350mio、3月 892mio、2月 424mio、1月 295mio、2009年12月 946mio、11月 313mio、10月 307mio、9月 830mio、8月 576mio、7月 705mio、6月 1.94bio、5月 1.55bio 外為市場で豪ドルネット売り (一種の売り介入との捉え方も)

### <注目イベント>

13（月）カナダ第3四半期設備稼働率、14（火）日鉱工業生産、ユーロ圏鉱工業生産、独 ZEW 景況感調査、ユーロ圏 ZEW 景況感調査、米生産者物価指数、小売売上高、企業在庫、FOMC 政策金利発表、15（水）日銀短観、英失業率、米消費者物価指数、ニューヨーク連銀製造業景気指数、対米証券投資、鉱工業生産、設備稼働率、NAHB 住宅市場指数、16（木）独卸売物価指数、ユーロ圏消費者物価指数、米第3四半期経常収支、新規失業保険申請件数、住宅着工件数、建設許可件数、フィラデルフィア連銀景況指数、17（金）独 IFO 景況指数、ユーロ圏建設支出、ユーロ圏貿易収支、米景気先行指数、20（月）日銀金融政策決定会合、月景気動向指数、独生産者物価指数、ユーロ圏経常収支、ユーロ圏消費者信頼感、21（火）日銀金融政策決定会合（20日～発表）、RBA 議事録、数、小売売上高  
22（水）通関ベース貿易収支、BOE 議事録、英 3Q GDP・確報値、経常収支、米 3Q GDP・確報値、住宅価格指数、中古住宅販売件数、23（木）東京休場（天皇誕生日）NZ3Q GDP、カナダ GDP、米耐久財受注、個人所得、個人支出、新規失業保険申請件数、ミシガン大消費者信頼感指数、新築住宅販売件数、24（金）

### <当地の気になる情報>

オーストラリア競争消費者委員会（ACCC）は、シンガポール証券取引所（SGX）によるオーストラリア証券取引所（ASX）の買収計画について、競争を阻害しない、とする結論を出し、容認した。プラティパス・アセット・マネジメントの最高投資責任者（CIO）、ドン・ウィリアムス氏は ACCC の審査について、「最も容易なハードルだった。政治的な障害はさらに大きい。買収実現の道のりは長い」と指摘した。SGX による ASX 買収計画がいま直面している最大のハードルは、豪議会の承認だ。買収実現のためには、豪議会が ASX 株の保有比率制限を解除する必要がある。一部の議員は、海外企業による自国企業買収が国益にかなわない可能性に懸念を表明している。買収実現にはさらに、外国投資審査委員会（FIRB）と財務相による計画承認が必要となる。

## <豪ドル相場解剖>

- ・ 豪ドルトレンド 6カ月間 ----波動相場から上昇トレンドへ

豪ドル→97セント中心±500ポイント、

豪ドル円→80円中心±500ポイント)

- ・ 足元のセンチメント                      上値達成感だが基本は堅調
- ・ 足元の予想                                戻り売り

(大局ー相場力学) 2008年7月から10月にかけて大暴落(史上高値98セント台→60セント台、104円台→55円台)した豪ドルは、2008年末～2009年年始にかけて下部の“鍋底”を形成して上昇エネルギーを蓄えた。2009年3月より上昇モーメントム徐々に積み上がり年間を通して上昇トレンドを形成(94セント台、85円台まで)し2010年3月まで上昇トレンド継続した。4月に戻り高値93セント台、88円台の高値を付けた後、上方エネルギー放出→再蓄積のサイクルを繰り返してきたが、5月に下方モーメントム爆発して80セント台、71円台まで大幅下落。その後は概ね81セント台～93セント台、73円台～80円台の比較的大きなレンジ内での“波動相場”を形成。9月以降豪ドルはレンジ相場を抜けて上昇トレンドに乗り史上高値の1AUD=1USDのパリティーに達し(10/18)1.0100台後半、豪ドル円は82円台後半の高値を付けた後、上昇エネルギー放出して反落したが底堅し。

### (2002年～今日までの動き)

2000～2001年の国内景気後退で軟調推移していた豪ドルは(史上安値0.4775、2001年4月)、世界経済の拡大基調を背景とした国際商品価格の大幅上昇や、国内景気回復に伴うRBAの金融引き締めによる金利格差が追い風となり、2002年から長きにわたり上昇トレンドを形成した。アセットバブルの急膨張を背景に2008年7月には史上高値<0.9848、史上高値(7/15)、104.47円(7/21)ただし豪ドル円の史上高値は107.88(2007/10/31)>を示現したが、直後リーマン破綻に象徴される世界金融恐慌が勃発し暴落を演じた。0.6009(2008/10/27)、55.20円(2008/10/24 史上安値)まで下落し、2008年末～2009年年初にかけて下値圏で“鍋底を相場”を形成。2009年年初より各国協調によるドラスティックな財政・金融両面からの景気刺激策実施を受けて世界的に株価が2009年3月に底離れしたのを契機に4月以降上昇に転じ、6-8月は77セント-84セント、70円-82円での中段保合を形成。世界の株価や商品相場の堅調と国内景気の前想を上回る回復を背景にRBAは2009年10月から3ヶ月連続で政策金利を25bpずつ引き

上げて史上最低レベル (3.0%) のオフィシャルキャッシュレートを 12 月には 3.75%とした。豪ドルも 10 月以降再度上昇トレンドを開始し 11 月には 2009 年年間高値<0.9406 (2009/11/16)、豪ドル円は 85.32 (2009/10/23) >を付けた。2010 年年初は新年の世界経済への期待感、株価堅調、商品相場の上昇などを背景に 93 セント台、86 円台まで上伸してスタートしたが、その後中国の金融引き締め (預金準備率引き上げ)、ギリシャ初め南欧諸国の信用リスク、オバマ大統領の新金融規制案でリスク許容度が低下して商品相場、株価が調整局面に入り、更に RBA 金利据え置き決定 (2/2) で一時 86 セント割れ、76 円近辺に大幅下落 (2/4)。その後は豪州の金利格差(3 月利上げ)、景気格差、商品相場の堅調が豪ドルをサポートする一方、ギリシャ問題など南欧の信用リスク問題や中国の金融引き締めなどのリスク要因が売り材料となり一進一退を繰り返した。

4 月に入り 5 回目の利上げも後押ししての高値 0.9389、88.07 円まで上昇したが、根強いギリシャ問題、人民元切り上げ観測、ゴールドマンサックス訴追問題などでリスク回避の動きも強く、5 月の 6 回目の利上げを挟んで 0.91~0.93 台、85 円~87 円台での UP & DOWN の揉み合いを繰り返した。しかし 5 月半ばにかけて欧州ソブリンリスクの世界蔓延懸念から市場パニックとなる中、リスクアセット全般が大幅下落し、豪ドルも 80 セント台、71 円台まで暴落したが、5 月末にかけてさすがに徐々に落ち着きを取り戻し 85 セント台、78 円台まで値を回復した。6 月金利据え置き、Q1GDP の結果は予想の範囲内、高値 0.8523、79.03 円まで上がって再び欧州問題、弱い米雇用統計を受けたリスク回避の動きで 80 セント台、73 円台に反落。7 月に入り欧州懸念に加えて、米景況感悪化、中国景況感悪化と重なり 83 セント台、72 円台まで大幅下落。発表された 6 月豪雇用統計の非常に強い数字や資源税に対するギラード新政権の妥協も好感され、加えて欧州危機に対しても欧州銀行へのストレステスト実施であく抜け感強まり 88 セント台、78 円台に再び上昇したのち、中国の弱い指標や米景気後退懸念を嫌気して 86 セント台、74 円台まで反落。8 月は米景気不安から米金利低下し豪ドルは 92 セント台に上昇する一方、ドル円の 84 円台への急落を反映して豪ドル円は 75 円台まで下落。連邦選挙結果は予想通りのハングパーラメントだったが、89 セント近辺、76 円近辺に小戻し (8/23) しかしドル円が 83 円台をつけ“円全面高”になるに至り、豪ドル 0.8800 近辺、73 円台まで急落 (8/24) 後、円高警戒感から一時 90 セント台、77 円台に反発 (8/30)。9 月は米国の強い Q2GDP、予想より良い米 8 月雇用統計を受けて 91 セント台後半、一時 78 円近辺に上昇 (9/3)。ギラード政権続投による資源税を嫌気し、ドル円の 83 円台続落を受けて 90 セント台、76 円台前半に反落後、強い 8 月雇用統計、スティーブンス RBA 総裁のタカ派的発言を受けて 94 セント台に上昇。また豪ドル円も日銀の円売り介入の報に 81 円台後半まで反発した。10 月は RBA 金利据え置きで一旦 95 セント台半、79 円台に下落したが、根強い米追加緩和期待から豪ドル続伸、9 月の強い雇用統計を受けて 99 セント台、81 円台に上昇!! (10/7) 一旦 97 セント台、80 円割れに小反落したが、米緩和期待やアジア通貨高を受けて再び 1.00 直前まで上昇、豪ドル円はドル円続落を受けて 80 円半ばに軟化 (10/14) バーナンキ議長の講演 (追加緩和示唆) の後、史上高値 1.0003 をヒット (10/15)。利食い調整に 0.97 台、78 円台に反落。しかし G20 明けには、米ドル支援策欠如や、米金融緩和観測の高まりから再び 99 セント台、80 円台に反発 (10/25) 10/27 発表された Q3CPI が予想を下回り 96 セント台、78 円台に反落後、予想外の利上げ、更に米国の QE2 を受けて 1.0200 手前、82 円台後半まで反発。しかしその後強い米雇用統計後の米金利上昇観測と、アイルランドの財政懸念、中国の利上げ懸念からリスク回避の動き強まり 97 セント台、80 円台 (11/12) に反落した。売り一巡後は 99 セント台半ば、83 円近辺まで戻したが北朝鮮の砲撃の後、リスク回避の売りに 97 セント台前半、80 円台半ばまで一時値を崩しその後小幅買い戻し

(11/24) しかし RBA 総裁のハト派的発言を受けて 96 セント台まで反落した (11/26) また弱い GDP を受けて 95 セント台 79 円台まで続落した (12/1)。しかしその後は弱い米雇用統計を受けて 99 セント台後半、82 円台まで反発した後、米減税措置の延長を好感した米ドル買い戻しがでて 97 セント台に反落するなど (豪ドル円は 82 円台キープ) UP & DOWN を繰り返す (12/8) 強い 11 月雇用統計で 99 セント手前、82 円台後半まで上伸後、小反落 (12/10)。FOMC を前に 1.00 台、83 円台半ばに上昇したが、FOMC 後は 0.9900 近辺に反落。ただし豪ドル円は 83 円台の高値キープ (12/15)

向う半年の予想レンジ：**豪ドル米ドル 0.9000-1.0500、豪ドル円 73.00-88.00 円**

### (小局) 米ドルは BUY ON FACT

まあ、“うまくできている”というか週初はムーディーズが「米減税パッケージが格付け見通しネガティブの確率高める」と発表したり、欧州各国金融当局が欧州財政不安を鎮静化する目的の内容の発言を繰り返しユーロの反発を見た。時あたかも FOMC による金融緩和期待 (声明内容) の高まりに米ドル下落、ユーロ買い戻しでユーロは 1.34 台に反発。このユーロの動きに加えて発表された中国の各種経済指標が、これまた強いものとなり、週末の中国準備率引き上げでネガティブになりつつあったセンチメントが一変し、中国株価が反発したことも豪ドル好材料と解釈された。豪ドルは昨日再び 1AUD=1USD のパリティを一時達成し、豪ドル円も従来の抵抗線であった 83 円台の上にと上昇した。ここまではいわば、“週初ドル安が進む”と言う読み通り。そして今朝の FOMC の結果、超低金利期間が長引くとの見方は再度確認されたものの、債券買取計画に一部で予想された増額は見られず、声明発表後は米ドル買い戻しの動きが活発になりつつある。

さてクリスマス休暇が近づきつつあるが、やはり年内の流れとしては、FOMC による再々量的緩和がなかったことから、あとは本来の年末のドル買い需要と今年下半期に売られまくった米ドルに対するショートカバーがやはり続くのではなかろうか。また欧州不安はじめリスク許容度が減少すると、円買いよりはむしろ米ドル買いに市場のオペレーションが傾くようにも思われる。

係る中、豪ドルは年末の輸出関連需要があることは確かであるが、それを期待して乗った投機の豪ドル買いも活発化しており、“上げた後はドスンと落ちる”危険性には注意したい。

1AUD=1USD の上に乗りきるには、やはり米ドルの反落が必要となる。

(向う 1 週間の予想レンジ：豪ドル米ドル 0.9800-1.0050 豪ドル円 81.50-84.50)

### <豪ドル売り・買い指数—現状分析 (前回の結果—当たり、はずれ—を踏まえて毎回レビュー訂正) >

豪ドルの好・悪材料の相場への影響度を項目別に分類して-10 (最弱) から+10 (最強) まで **独自の手法で数値化**したもの。項目数は適宜増減する。たとえば 10 項目であれば、理論上総合判断では最強を+100、最弱を-100 となる。各要因は相関 (または逆相関) 関係があるが (たと

えば市場センチメントがベアになればセンチメントは売り要因（－）となるが逆に市場は売りポジションになるので、ポジション調整の可能性から豪ドル買い要因（＋）となりうるなど。また同じ要因でも時間が経過すれば影響度は減少または消滅すると考える。

客観情勢の「目安」となる変動要因の数値化で“現状分析”が主眼。これを元に将来を予測する一助とする。総合判断の数字が「±50」以上など大きくぶれた時がチャンス！！

-10	-9	-8	-7	-6	-5	-4	-3	-2	-1	0	+1	+2	+3	+4	+5	+6	+7	+8	+9	+10
-----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----

構成要因	ポイント	今回数値	前回数値
豪州ファンダメンタルズ（経済・政治）	<p><b>*Good</b></p> <p>12月 WESTPAC 消費者信頼感指数+0.2%（前回-5.3%）（12/15）、11月雇用統計（失業率 5.2%、予想 5.2%、前回 5.4%、就業者数+54.6千人、予想+20千人、前回+29.7千人）（12/9）、11月 ANZ 求人広告+2.9%（前回+0.7%）（12/6）、11月 トロントドミニオン証券インフレ率 0.4%（前回 0.3%） 3.9%（3.8%前回年率）（12/6）、10月貿易収支+2625mio(+2000mio 予想、+1760mio 前回）（12/2）、10月建設許可件数+9.3%（予想+1.4%）（11/30）、Q3 賃金インデックス（+1.1%、予想+1.1%、Y/Y+3.5%、予想 3.3%）（11/17）、11月熟練工求人数+2.5%（前回-0.5%）（11/17）、Q3 住宅価格 0.1%（Q/Q 予想 0.0%） 11.5%（Y/Y 予想 13.4%）（11/1）、10月 AIG 製造業活動指数 49.4（前回 47.3）（11/1）、Q3NAB 企業信頼感指数（9、前回 6）（10/26）、豪 Q3PPI、（前期比+1.3%、予想+0.5%、前回+0.3%、前年比+2.2%予想+1.4%、前回+1.0%）（10/25）、9月 NAB 企業信頼感 10（前回 11）、企業景況感 7（前回 5）（10/12）、豪政府連邦予算案は景気見通しを上方修正 2009/10+2.0%（前回+1.5%）、2010/11+3.25%（前回 2.75%）（5/11）、RBA 四半期金融政策報告 2010年 GDP</p>	+3	+3

	<p>予想 3.5% (前回 3.25%) 2011 年 3.5%、(前回 3.75%)、基調 CPI 予想 2010 年 2.75%、2011 年 2.75% (前回と同じ) (11/5)</p> <p><b>*Bad</b></p> <p>10 月小売売上高-1.1% (+0.4%予想、+0.3%前回) (12/2)、<b>Q3GDP 前期比+0.2 (予想+0.4%、前回+1.2%) 前年比+2.7% (予想+3.4%、前回+3.3%) (12/1)</b> Q3 経常収支 (-78.3 億ドル、予想-66 億ドル、前期-54.3 億ドル) (11/30)、Q3 企業収益 (-1.5%、予想+4.0%、前回+18.9% --2009 年 Q2 以来の低水準) (11/29)、予想 +5.8%、Q3 建設活動 (-2.1%、予想+2.0%、前回+3.5%) (11/24)、<b>豪 Q3CPI(前期比 0.7%、前年同月比 2.8%前回 0.6%、3.1%)、RBA アンダーライニング CPI 前期比 0.6% (前回 0.5%) 前年比 2.4% (前回 2.7%) (10/27)、Q2CAPEX (民間設備投資) (-4.0%、予想+2.3%、前回 -0.2%) (8/26)</b></p>		
<p>市場センチメント (リスク値に対する円キャリーポジション造成・解消などに関わる)</p>	<p>NYK ダウは 39 ポイント上昇で 11,467 ドル、VIX 恐怖指数+0.13 で 17.68 センチメント小幅改善。</p>	+1	+1
<p>短期筋推定市場ポジション (キャリートレード、IMM ポジションなどから判断) 調整の有無</p>	<p>シカゴ IMM の通貨先物ポジションは豪ドル買いコントラクト 43,352 (前週比買いが+16,709 コントラクト、12/7 付)、短期筋の市場ポジション豪ドル若干ロング、豪ドル円はロング増える。</p>	-2	-1
<p>商品相場</p>	<p>原油は 87 ドル台で変わらず、金は 1392 ドル台に小幅上伸。CRB インデックスは-0.36 の 319.51 と高値維持。石炭、鉄鉱石共に 9 月以降値下げ圧力。(石炭-7%?)しかし来年はまた値上げの模様。</p>	+1	-1
<p>金利</p>	<p><b>利上げは来年 Q2 以降との見方が増える。</b> 市場予想は 2011 年で 0.25~0.50%の利上げに。(今まで 2011 年末 6.00%だった)。米豪 10 年利回り格差 <b>2.4%に小幅縮小。</b></p>	-1	-1



需給	<p><u>年末の豪州輸出企業の実需カバー豪ドル買い。</u></p> <p><u>年末の投資需要？</u> 今年は石炭、鉄鉱石.価格増加 (50-60%以上) を見込んだ需要。ただ年後半は中国景気スローダウンで値下げ圧力も。今年はずより中国など海外からの直接投資、M&amp;A に絡む豪ドル買い需要が増えそう。豪州穀物商社 AWB はカナダの肥料メーカーアグリウムの 1.2bio 買収案を受け入。フォスタービールに対する買収の話。アサヒビール、豪州第三位の飲料会社 P&amp;N を 364mio 豪ドルで買収。リオ・テイントによる 35 億ドルリバーズデール・マイニング買収の話。シンガポール証券取引所の ASX84 億ドル買収の話 (まだ問題はある)。一方豪ドル高から海外企業買収案件も。</p>	+3	+4
テクニカル (チャート)	<p>一目均衡表の雲 (0.9757-0.9958、80.54-81.08) 豪ドルは雲の上限付近に上昇、豪ドル円は雲の上を更に上昇。ボリンジャーバンド (0.9571-1.0035、80.35-83.65) の上限にブチ当たって反落。RSI は豪ドル 57.39%、豪ドル円は 63.39%で overbought 特に豪ドル円が進む。豪ドルは上ヒゲ残して反落しており、あまり後味がよくない。</p>	-1	+2
その他 (日替わり)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ユーロ若干弱い</li> <li>・ 米ドル FOMC 後 buy on fact</li> <li>・ 中国関係—経済指標強く利上げのインパクトあまりなし</li> <li>・ 資源超過利潤税</li> </ul>	<p>-1</p> <p>-1</p> <p>+2</p> <p>-1</p>	<p>-1</p> <p>-1</p> <p>-2</p> <p>-1</p>

<p>“<u>現状</u>” 総合判断 (必ずしも今後の予測とはならず)</p>	<p>若干依然上げバイアスに</p>	<p>+3</p>	<p>+4</p>
--	--------------------	-----------	-----------

(\*Good, Bad は豪ドルにとってという意味)

<トレーディング実践> 豪ドルロング、ドル円ロングキープの時間差利食い

成功！！

結果的には、豪ドルは1.0000に達してくれたし、ドル円は82.80のストップロスをかすったが生き残り、ここまでまあまあのでき。まあ過去の経緯から FOMC までドル売り優勢となり、FOMC 後は BUY ON FACT の買い戻しがあるであろうという年寄りの経験則がたまには当たったということ。(謙虚) まあ“それなら何で FOMC までドル円ショートでいかないんか？”という当然の疑問がわくかもしれない。まあ結果オーライだから言えるのだが、ドル円の暴落はないとの読みがあったのはたしか。まあ豪ドルはユーロの戻りプラス中国の指標改善プラス FOMC 前のドル軟調とうトリプル材料に助けられて上昇した感じ。まあ豪ドルは年末の輸出見合いの買いもまだあるだろうし、あまりショートにしたいわけではないが、年末まで 0.9700-1.0000 位の予想レンジを想定しているので、米ドル買い戻しがもう少し続けば 0.97 台~0.98 台前半はあるのではとの見方から今度はショートに振った。そのレベルはまた豪ドルロングを仕込むポイントではなかろうか。

・前回のポジション USDYEN long at 83.00(買い増し) 84.00 で一部利食い PT 84.50 SL 85.00 SL 82.80

AUDUSD long at 0.9850 PT 0.9900 (DONE) 0.9950(DONE) 1.0000(DONE) SL 0.9730

・現在のポジション USDYEN long at 83.00(買い増し) PT 84.50 SL 85.00 SL 82.80

AUDUSD short at 1.0000 PT 0.9900 0.9850 SL 1.0050

本日の予想レンジ： 豪ドル米ドル 0.9850-1.0000 豪ドル円 82.50-83.80

<懺悔の部屋>—過去の失敗から学ぶもの—

(心理面、技術面、チャート分析の3点より)

(その三百二十五) 売りから入るか買いから入るか、出だしの入り方が一番大事 (技術面)

暫く相場から離れていてリエントリーする場合、(朝のみならず)、“以前に事前準備の必要性”を述べたが、検討の結果、取り扱う通貨ペアを確定し、いざ“売り”か“買い”で入る段になって、色々考えてしまうのは人情。しかし“売り”か“買い”、“北”か“南”? 全く逆のことから選択する訳で、たとえ後にいくらでもポジションをひっくり返すことが出来るとは言え、やはり最初のポジションメイクの思考過程が後々まで尾を引くこともあろう。“売って買い、売って買い”で行くのか?“買って売り、買って売り”で行くのか? これはその日の相場観に強く影響されるが、出だしで正しいエントリーを選択すると、その後スムーズにトレーディングが進むことは皆さん経験済みであろう。もちろん“本能的”に出だしのポジションメイクをしたくなってむずむずするときには本能に従えばよい。しかし本能的に売りか買いかに強く動意を感じるなどそう頻繁にはないであろう。したがって大概の場合には、よく熟考して出だしは慎重に行きたい。またトレーディングをしていて“どうも歯車が合わない、フィーリングが合わない”と感じるときには、早めにポジション、思考をリセットして、再度出だしからやり直す勇氣も必要。なにがフィーリングが合わない原因かを突き止めて、再度“売り”か“買い”から始めよう。

<気になる出来事、発言>

出来事 (少々長いレビュー!!)	<ul style="list-style-type: none"><li>米 FOMC 政策金利 0.00-0.25%不変、米国債購入計画に変更なし (6000億ドル、期限来年6月末) (12/15)</li><li>OPEC 総会一日産 24.845mio バレルの生産枠据え置きを発表 (12/12)</li><li>中国今年6回目の預金準備率引き上げ (50bp) (12/10)</li><li>豪 11月雇用統計(失業率 5.2%予想 5.2%前回 5.4%、就業者数+54.6千人、予想+20千人、前回+29.7千人) (12/09)</li><li>RBA 理事会—オフィシャルキャッシュレート 4.75%に据え置き (12/7)</li><li>米 11月雇用統計、失業率 9.8% (予想 9.6%前回 9.6%)、NFPR+39千人 (予想+145千人、前回+172千人、民間+50千人) (12/3)</li><li>豪州第三四半期 GDP 前期比+0.2% (予想+0.4%、前回+1.1%)、前年比+2.7% (予想+3.4%、前回+3.3%) (12/1)</li><li>米韓合同軍事演習実施 (11/28)</li><li>EU、IMF、アイルランドは約 850 億ユーロ規模のアイルランド救済策で大筋の合意 (11/28)</li><li>RBA スティーブンス総裁—早期利上げの見通しは妥当でないと発言 (11/26)</li><li>北朝鮮が韓国延坪島を砲撃し、韓国が応戦で砲撃戦に (11/23)</li><li>中国がインフレ抑制策を発表 (11/22)</li></ul>
---------------------	---

- ・ アイルランドが EU、IMF の支援を受けると発表 (11/18)
- ・ APEC 首脳会議 (横浜、11/13)
- ・ 豪 10 月雇用統計(失業率 5.4% 予想 5.0% 前回 5.1%、就業者数+29.7 千人、予想+20 千人、前回+49.5 千人) (11/11)
- ・ 米 10 月雇用統計、失業率 9.6% (予想 9.6% 前回 9.6%)、NFPR+151 千人 (予想+60 千人、前回-41 千人、民間+159) (11/5)
- ・ 金価格史上高値 1398.30 (10Z) に上昇 (11/5)
- ・ 米 FOMC—金利据え置き 0.00-0.25%、資産購入を来年の 6 月まで 6000 億ドル限度に。月間は 750 億ドル (11/3)
- ・ 米中間選挙—下院共和党が過半数を取る見通し。上院民主党が過半数死守か (11/3)
- ・ **RBA 利上げ 4.50%→4.75% (11/2) (7 回目)**
- ・ 米国 Q3GDP 速報値(前期比年率)+2.0%(予想+2.0%、前回+1.7%) (10/29)
- ・ 豪州 Q3CPI 前期比 0.7%、前年比 2.8%、アンダーライニングインフレーション前期比 0.6%、前年比 2.4% (10/27)
- ・ G20 声明—競争力を増進する目的の通貨切り下げを回避し、市場原理に基づく為替レートを支持 (10/24)
- ・ 中国第三四半期 GDP+9.6%(予想+9.5%、前回+10.3%) (10/21)
- ・ 中国人民銀行預金貸出金利を 0.25% 引き上げ (10/19)
- ・ **豪ドル米ドル史上初パリティ—達成 1AUD=1.0003USD(10/15)**
- ・ ワシントン G7、IMF、世銀年次総会 (10/8-10/10)
- ・ 米 9 月雇用統計、失業率 9.6% (予想 9.7% 前回 9.6%)、NFPR-95 千人 (予想+5 千人、前回-54 千人、民間+65 千人、政府機関-159 千人) (10/8)
- ・ 豪 9 月雇用統計 (失業率 5.1% 予想 5.1% 前回 5.1%、就業者数+49.5 千人、予想+20 千人、前回+30.9 千人) (10/7)
- ・ 日銀金融政策決定会合で利下げ (0.1%→0.00-0.1%) (10/5)
- ・ RBA 理事会で金利据え置き (4.5%) (10/5)
- ・ 米下院対中制裁法案を可決 (9/29)
- ・ 9 月日銀短観—大企業製造業 DI(+8、予想+7、前回+1)、先行き (-1、予想+3、前回+3) (9/29)
- ・ 北朝鮮労働党代表者会で金ジョンウン氏、事実上の後継者に (9/28)
- ・ 米下院歳入委員会—人民元切り上げで対中制裁法案を可決 (9/24)
- ・ 日米首脳会談 (9/23)
- ・ 米 FOMC—金利据え置き 0.00-0.25%、金融緩和バイアス継続 (9/22)
- ・ 金価格史上高値 1290 ドル (10Z) に上昇 (9/21)
- ・ 政府・日銀ドル売り円買い介入 (82.90 近辺から 85 円台まで、ロンドン市場、NYK 市場まで) (9/15)
- ・ 民主党代表選、菅氏勝利 (9/14)

- ・ 豪 8 月雇用統計 (失業率 5.1% 予想 5.2% 前回 5.3%、就業者数+30.9 千人、予想+25 千人、前回+23.5 千人) (9/9)
- ・ 豪州選挙結果 (下院) 一労働党 76 議席<過半数> : 保守連合 74 議席 (9/7)
- ・ オバマ大統領総額 2900 億ドルの景気刺激策発表 (9/7)
- ・ 米 8 月雇用統計失業率 9.6% (予想 9.6%、前回 9.5%) NFPR-54 千人 (予想-105 千人、前回-131 千人) (9/3)
- ・ 豪州 Q2GDP—前期比+1.2% (予想+0.9%、前回+0.7%) 前年比+3.3% (予想+2.8%、前回+2.7%) (9/1)
- ・ 民主党党首選、菅、小沢二氏が出馬表明。投開票日 9 月 14 日 (9/1)
- ・ 日銀臨時会合 (8/30)
- ・ 小沢元幹事長民主党党首選挙への立候補表明 (8/26)
- ・ ドル円 15 年ぶりの安値 83.60 円に下落 (8/24)
- ・ 豪州総選挙 (ハングパーラメントに) (8/23 現在 150 全議席中労働党 72、保守合同 71、緑の党 1、無所属 3) (8/23)
- ・ 本来タカ派のウエーバー独連銀総裁の発言「欧州中銀は銀行への流動性供給を来年も続けるべき」欧州景気に対する警戒感高まる (8/20)
- ・ 日本 Q2GDP+0.1% (前期比予想+0.6%、前回+1.1%) +0.4% (前期比年率予想+2.3%、前回+4.4%) (8/16)
- ・ 日銀ドル円 85 円近辺でレートチェック (日銀確認) (8/12)
- ・ 豪 7 月雇用統計 (失業率 5.3% 予想 5.1% 前回 5.1%、就業者数+23.5 千人、予想+20 千人、前回+37.4 千人) (8/12)
- ・ 米 FOMC 金利ターゲット 0.00-0.25% で不変、「長期にわたる異例の低金利継続」、MBS・政府機関債の償還資金を米国債に再投資 (8/10)
- ・ 米 7 月雇用統計失業率 9.5% (予想 9.6%、前回 9.5%) NFPR-131 千人 (予想-65 千人、前回-221 千人) (8/6)
- ・ RBA 金利据え置き 4.50% (8/3)
- ・ 米第二四半期 GDP +2.4%(予想+2.6%、前回+3.7%) (前期比年率) (7/30)
- ・ NZ 準備銀行利上げ 2.75%→3.00% (7/29)
- ・ 豪州 Q2CPI 前期比 0.6%、前年比 1.0%、アンダーライニングインフレーション前期比 0.5%、前年比 2.7% (7/28)
- ・ EU ストレステスト 91 行中 7 行不合格 (7/23)
- ・ カナダ中銀政策金利引き上げ 0.50%→0.75% (7/20)
- ・ ギラード首相 8 月 21 日総選挙を発表 (7/18)
- ・ 中国の第二四半期 GDP +10.3%(前回+11.9%、予想+10.5%) (7/15)
- ・ Moody's ポルトガル格下げ Aaa2→A1 (7/13)
- ・ 民主党参院選の結果過半数割れ (7/12)
- ・ ワールドカップサッカー—スペインがオランダ破り優勝 (7/11)
- ・ 米財務省中国を為替操作国に認定せず (7/8)

- ・ 6月の豪雇用統計（就業者数+45.9k、予想+15.0k、前回+22.8k、失業率5.1%、予想5.2%、前回5.2%）（7/8）
- ・ RBA金利据え置き4.50%（7/6）
- ・ 6月米雇用統計、非農業部門就業者数-125千人（予想-130千人、前回+433千人、失業率9.5%、予想9.8%、前回9.7%）（7/2）
- ・ 資源超過利潤税30%で政府/鉱山会社合意（7/2）
- ・ カナダG8、G20（6/26-27）
- ・ 米FOMCで出口戦略出ず（6/23）
- ・ 中国人民銀行人民元の柔軟化方針を発表（6/19）
- ・ 欧州連合、金融機関のストレステスト実施で合意（6/17）
- ・ EU首脳会議（6/17）
- ・ ムーディーズ、ギリシャ格付けをA3からBA1に格下げ。見通しは良好（6/14）
- ・ FIFAワールドカップ開催（6/11）
- ・ BOE政策金利据え置き（0.5%、予想0.5%）ECB政策金利据え置き（1.0%、予想1.0%）（6/10）
- ・ 5月の豪雇用統計（就業者数+26.9k、予想+20.0k、前回+25.3k、失業率5.2%、予想5.4%、前回5.4%）（6/10）
- ・ NZ準備銀行利上げ（2.50%→2.75%）（6/10）
- ・ 米国5月雇用統計（非農業部門就業者数+43.1千人—内国勢調査臨時雇用+411千人（予想+500千人、前回290千人、民間は+41千人、失業率9.7%、予想9.8%、前回9.8%）（6/4）。
- ・ 豪州Q1GDP前期比+0.5%（予想+0.5%前期+1.1%）、前年比+2.7%（予想+2.4%、前期+2.8%）（6/2）
- ・ 鳩山首相辞任（6/2）
- ・ RBA金利据え置き4.50%（6/1）
- ・ 社民党連立政権を離脱（5/30）
- ・ フィッチスペインをAA+に格下げ（5/28）
- ・ 米中戦略経済対話（5/24-25）
- ・ 独政府、株、国債、CDSの空売り規制を独主要10行に実施（5/18）
- ・ EUギリシャに一回目の融資145億ユーロ実施（5/18）
- ・ 4月の豪雇用統計（就業者数+33.7k、予想+22.5k、前回+19.6k、失業率5.4%、予想5.3%、前回5.4%）（5/13）
- ・ ギリシャ政府正式に200億ユーロの支援実施を要請（5/11）
- ・ 豪州連邦予算案（2010/2011年度）発表（5/11）
- ・ 英国保守・自民連立政権（キャメロン首相）成立（5/11）
- ・ EU財務相会議でEU安定化プログラムに合意（5/9）
- ・ EU総額750bio(内IMF250bio 拠出)のユーロ支援で合意（5/9）

- ・ 欧州各国リーダー/IMF は公式にギリシャ救済策（80bio/30bio）を承認（5/8）
- ・ 米国4月雇用統計（NFPR +290k、予想190k、前回230k、失業率9.9% 予想9.7%、前回9.7%）（5/7）
- ・ ソブリンリスク問題拡大を嫌気し NYK ダウ一時1000ポイント（1万ドル割れ）下落（5/6）
- ・ **RBA 利上げ 4.25%→4.50%（5/4）（6回目）**
- ・ EU 財務相会議でギリシャ救済策決定—総額1,100億ユーロ（EUが800億ユーロで300億は本年分、IMFが300億ユーロ、金利5%）
- ・ 中国今年3度目の預金準備率0.5%引き上げで17.0%に（5/2）
- ・ 米国Q1GDP 前年同月比+3.2%（予想+3.4%、前期+5.6%）（4/30）
- ・ FOMC 長期間の低金利維持を再確約、FF 金利の誘導目標は引き続き0.0%-0.25%（4/28）
- ・ S&P スペインの格付けをAAに引き下げ（4/28）
- ・ 豪州Q1CPI、RBAインフレ率3.05%（予想2.95%、前回3.4%）（4/27）
- ・ S&P ポルトガルの格付けをA+からA-に引き下げ（4/27）
- ・ S&P ギリシャの格付けをBB+（ジャンク債等級）に引き下げ（4/27）
- ・ ギリシャ政府 EU と IMF に支援要請（4/23）
- ・ ムーディーズ、ギリシャを格下げA2→A3（4/22）
- ・ IMF 豪州のGDP見通しをアップワードリバイズ  
2010年3.0%（前回2.5%）、2011年3.5%（前回3.0%）（4/22）
- ・ RBA 議事録（4月分）—金利は平均をわずかに下回っている。追加利上げの可能性（4/20）
- ・ 米証券監視委員会（SEC）サブプライム関連 CDO 取引でゴールドマンサックスを詐欺容疑で提訴（4/16）
- ・ 中国Q4GDP（前年同期比）11.9%（予想11.7%、前期10.7%）
- ・ ワシントン核保障サミット（4/12-13）
- ・ EU16カ国財務相—ギリシャの要請があった場合2国間融資で300億ユーロまで資金供与で合意。期間3年、金利5%程度（4/11）
- ・ 中国の3月貿易収支-\$0.7bio（2004年4月以来初めての赤字）（4/10）
- ・ 豪州3月雇用統計—失業率5.3%（前回5.3%）就業者数+19.6千人（前回-4.7千人）full time job +30.1千人（4/8）
- ・ **RBA 利上げ 4.00%→4.25%（4/6）（5回目）**
- ・ 3月米国雇用統計、失業率9.7%、NFPR+162千人（前回9.7%、-14千人）（4/2）
- ・ 日銀短観（Q3）大企業製造業DI-14（予想-14、前回-24）、先行き-8（予想-8、前回-18）（4/1）
- ・ 欧州首脳会合でギリシャ支援策合意—二国間融資とIMFの支援を組み合

わせ (3/25)

- ・ フィッチ、ポルトガルのソブリン格付けを AA から AA-に引き下げ (3/24)
- ・ Google 中国の検索事業から撤退 (3/22)
- ・ 米医療保険改革法成立 (3/21)
- ・ インド中銀金融引き締め (リバースレポとレポ金利をそれぞれ 25bp 引き上げ (3/19)
- ・ FOMC—長期間にわたって金利を異例の低水準で据え置くことを継続 (3/16)
- ・ 豪州 2 月雇用統計—失業率 5.3% (前回 5.2%) 就業者数+0.4 千人 (前回 +56.5 千人) (3/11)
- ・ ギリシャ議会 4.8bio ユーロの財政削減策を予定通り可決 (3/6)
- ・ 米国 2 月雇用統計失業率 9.7% (予想 9.8%、前回 9.7%)、非農業部門就業者数-36 千人 (予想-68 千人、前回-20 千人) ((3/5)
- ・ 豪州 Q4GDP 前期比+0.9% (予想+0.9%、前回+0.2%)、前年比+2.7% (予想+2.4%、前回+0.5%) (3/3)
- ・ **RBA 利上げ 3.75%→4.00% (3/2) (4 回目)**
- ・ 独・仏銀ギリシャ債購入計画 (2/26)
- ・ フィッチ、ギリシャの 4 大銀行を格下げ BBB+→BBB(2/23)
- ・ 米 FRB 公定歩合を引き上げ (0.5%→0.75%) (2/18)
- ・ 中国人民銀行今年二度目の金融引き締め。預金準備率を 50bp 上げて 16.50%に (2/12)
- ・ EU 首脳会議—ギリシャ救済で合意。具体策は来週に持ち越し (2/11)
- ・ 豪州 1 月雇用統計—失業率 5.3% (予想 5.6%、前回 5.5%)、就業者数+52.7 千人 (予想+15 千人、前回+37.5 千人) (2/11)
- ・ カナダ・イカルイト G7—2010 年も景気刺激策の継続で合意 (2/7)
- ・ RBA 四半期金融報告 (GDP、CPI 予想を若干上方修正) (2/5)
- ・ 12 月豪州小売売上高-0.7% (予想+0.2%、前回+1.4%) (2/4)
- ・ RBA 理事会—金利据え置き 3.75% (2/2)
- ・ 米国予算教書 (2/1)
- ・ 米国 Q4GDP (前年同月比) +5.7% (予想+4.6%、前回+2.2%)
- ・ 米上院バーナンキ FRB 議長の再任を賛成多数で承認 (1/28)
- ・ FOMC 政策金利を 0.00%~0.25%で据え置き (1/27)
- ・ IMF2010 年世界経済見通しを 10 月時点の 3.1%から 3.9%に引き上げ (1/26)
- ・ 中国の 2009 年 GDP8.7% (1/21)
- ・ オバマ大統領金融規制案発表 (1/21)
- ・ 日本航空会社更生法の適用を申請 (1/19)
- ・ 鳩山内閣支持率年初の 56%から 45%に下落 (1/18)



- ・ 豪州 12 月雇用統計 (雇用者数+35.2 千人、予想+10 千人、前回 31.4 千人、失業率 5.5%、予想 5.8% 前回 5.7%) (1/14)
- ・ 中国預金準備率引き上げ発表 (1/12)
- ・ 米国 12 月雇用統計、NFPR -85 千人 (前回+4 千人)、失業率 10.0% (前回 10.0%) (2010/1/8)
- ・ 菅新財務相 (2010/1/7) --もう少し円安に進んだ方がよい発言。
- ・ 藤井財務相辞任 (健康上の理由) (2010/1/6)
- ・ 豪州 Q3GDP +0.2% (前期比、予想+0.6%、前回+0.6%) +0.5% (前年比、予想+0.7%、前回+0.6) (12/16)
- ・ **RBA 理事会で 3 カ月連続 25bp 利上げ 3.50%→3.75% (2009/12/1)**
- ・ ドル円 14 年 (95 年 7 月以来) ぶりの安値 84.80 に下落 (11/27)
- ・ ドバイショックドバイ・ワールドの債務返済延期要請 (11/26)
- ・ 米国 Q3GDP 改定値 (前期比年率) 2.8% (速報値 3.5%) (11/24)
- ・ 豪州 10 月雇用統計 (失業率 5.8%、前回 5.7%、就業者数+24.5 千人、前回+39.8 千人) (11/12)
- ・ RBA 四半期金融政策報告で 2009 年 GDP 見通しを従来の+0.5%から +1.75%に引き上げ。2010 年 GDP 予想を 3.25% (11/6)
- ・ **RBA 理事会利上げ 3.25%→3.50% (11/3)**
- ・ **中国第三四半期 GDP +8.9%(予想+9.0%、前期+7.9%) (10/22)**
- ・ **RBA 理事会—利上げ 3.00%→3.25% (10/6)**
- ・ 鳩山内閣発足 (2009/9/16)
- ・ 豪州 Q2GDP 前期比、前年同期比ともに+0.6% (予想前期比+0.2%、前回 +0.4%) (9/2)
- ・ 中国第 2 四半期 GDP 前年比 7.9% (7/16)
- ・ **豪州第 1 四半期 GDP 前期比、前年比ともに+0.4%でリセッション入り回避 (6/3)**
- ・ GM 破産法適用申請。負債総額 1728 億ドルで米歴代 3 位 (2009/6/1)
- ・ 日本の第 1 四半期 GDP-15.2% (前期比年率、戦後最悪) (5/20)
- ・ 豪州連邦予算案 (2009 年 7 月～2010 年 6 月) 発表。\$57.6bio 赤字予想 (5/12)
- ・ ECB25bp 利下げして 1.00%、ユーロ建てカバーボンド買い入れ (5/7)
- ・ クライスラー破産法申請 (4/30)
- ・ **RBA 利下げ 3.25%→3.00% (4/7)**
- ・ **ロンドン G20 (2009/4/2)**
- ・ ダウ一時 6467 ドルの新安値に下落。(3/6) 終値安値は 3/9 の 6547 ドル
- ・ 豪州 Q4GDP -0.5% (前期比) (3/4)
- ・ **米景気対策法 (7870 億ドル) 成立 (2/17)**
- ・ 日本の第 4 四半期 GDP 年率-12.7%(2/16)
- ・ 豪上院 420 億ドル景気対策法案を可決 (2/13)

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ RBA 利下げ 4.25%→3.25% (2009/2/3)</li> <li>・ オバマ大統領就任式 (2009/1/20)</li> <li>・ 日銀は政策金利の誘導目標を引き下げ。0.3%→0.1%。また企業 CP 買取策を発表 (2008/12/19)</li> <li>・ 米 FOMC で FF 金利の誘導目標を 0.0%~0.25%に引き下げ (2008/12/16)</li> <li>・ RBA 利下げ 5.25%→4.25% (2008/12/2)</li> <li>・ 11/21 早朝 RBA 豪ドル買い介入 (5回目) 0.6100 近辺。10月24日、27日、28日、11月13日に続く)</li> <li>・ 米金融安定化法 (7000億ドルの TARP が柱) 成立 (2008/10/3/08)</li> <li>・ リーマン・ブラザーズ自力再建を断念し連邦破産法 11 条に基づく更生手続き適用を申請 (2008/9/15)</li> </ul>
<p>発言</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ガイトナー財務長官—ブッシュ減税の延長に関して経済に強い影響を与える (12/14)</li> <li>・ オルドネス・スペイン中銀総裁—銀行が危機だとしてもユーロの他国にくらべれば影響は限定される。スペインの銀行は危機に対して上手く対応した。</li> <li>・ サルゴジ仏大統領—米ドルの準備通貨としての役割について協議を呼び掛ける (12/13)</li> <li>・ ゴンザレス・パレルモ ECB 専務理事 (スペイン政府の経済改革は適切とした上で) 約束した政策を実施しなければならない。EU は強いガバナンスを持っており、財政赤字に対する対応力は改善している (12/13)</li> <li>・ ショイブレ独財務相—ユーロ防衛は我々独自の利益である (12/13)</li> <li>・ スペイン中銀総裁—ECB は危機に迅速かつ正しく対処 (12/13)</li> <li>・ ラガルデ仏財務相—単一準備通貨は多様性ある経済において危機に対してもろい。世界の不均衡是正に対して政策の協調が必要 (12/12)</li> <li>・ ソクラテス・ポルトガル財務相—ポルトガルは IMF の救済を必要としていない。唯一の問題は財政を修正する必要性があること (12/12)</li> <li>・ サウジ石油相—あすの OPEC 総会で生産枠を拡大する必要はない。市場の基礎的要件は良好である (12/11)</li> <li>・ 白川日銀総裁—経済が予測を下回る場合には資産買い取りプログラムの拡大を検討する。いくつかの新興国経済は予想を上回る潜在力を示している (12/11)</li> <li>・ フレアティ—カナダ財務相—欧州債務危機は深刻なリスク。カナダ経済について最大のリスク要因は米景気回復 (12/10)</li> <li>・ OPEC 事務局長—原油価格 1 バレル=100 ドルになる公算。投機による上昇で 100 ドルになっても OPEC は行動しない。需給のファンダメンタルズに変化があるときのみ対応する (12/9)</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 米民主党下部部会—オバマ政権の共和党との減税合意案を拒否する (12/9)</li><li>・ サマーズ NEC 委員長—減税措置はクリスマスまでに立法化へ。減税措置は正しい方向 (12/9)</li><li>・ オバマ大統領—減税措置は数百万人の雇用創出に寄与 (12/9)</li></ul>
--	--